

(様式)

吉野中学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 (教 諭 ・ 川 村 寛)

2 学力向上検討委員会構成

職 名	氏 名
校 長	稲井 政人
教 頭	渡井 亨
教諭・教務主任	川村 寛
教諭・生徒指導主事	湯浅 成昭
教諭・研修主任	谷口 宏
教諭・人権教育主事	飯富 雅彦
教諭・特別支援教育コーディネーター	稲岡 由美子
教諭・3年生学年主任	稲田 博
教諭・2年生学年主任	日浅 由美子
教諭・1年生学年主任	中西 千代子

3 現状・課題

学 力	<p>「全国学力・学習状況調査」「徳島県学力調査」の結果について分析してみると、漢字や計算等の「基礎・基本的な力」をみる問題の平均正答率は、全国や県の平均と同等かそれを上回っている。しかし、国語科においては「書くこと」については平均を下回り、「読むこと」についても長文を十分に読み取れておらず、無回答率も増えている。また、数学科においても論理的思考や抽象的思考を要する問題には苦手な傾向が見られる。全体的に、課題に対して粘り強く、継続して取り組む姿勢を育てたいと考える。</p> <p>成績状況においても、上位と下位の二極化があり、学習に対してあきらめがちな生徒も見られる。そこで、月曜日の放課後を「学習の日」と設定して、学習習慣の定着を図っている。また、遅れがちな生徒には、学ぶ喜びを持たせるために、早朝学習等で個別指導を積極的に行い、生徒一人ひとりの学習意欲の向上に努めている。</p>
学 習 状 況	<p>朝食を食べない・家族と食事をしないといった生徒の比率が高い。家庭の実情も考慮すべきではあるが、それが学習意欲の低下や根気のなさにも関係しているように思われる。</p> <p>また、運動に対する関心がやや低く、携帯電話の使用率も高い等、生活習慣の見直しが必要な面もある。本校の伝統である、生徒一人ひとりに積極的に関わり寄り添う指導を続けていきたいと考える。</p>

4 目標等

(1) 学力について

<p>重点目標： ○すべての生徒に「やる気」を持たせ、「わかる授業」を実践する。 ○学習環境を整え、学習習慣を定着させるとともに、継続的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ○読書指導を通して、豊かな感性や読解力を養い、言語についての知識を増やす。</p>				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
<p>学習内容の基礎・基本を重視して、生徒のつまずきを知り、各自の課題解決が図れるような授業を実践する。</p>	<p>・各教科における観点別評価において、8割以上の生徒の「興味・意欲・関心」が「B」以上になる。 ・各定期試験において、問題作成者が設定する達成度（予想平均点）</p>	<p>・定期的に学力向上委員会を開いて、生徒のつまずきを把握できるように情報収集に努める。 ・毎週月曜日を「学習の日」と定め、全ての生徒に放課後学習を実施して、全教職員が指導にあたり、基礎基本の定着と学習習慣の育成を図る。 ・個別学習を活用して、基礎的な内容を理解させ、様々な問題に取り組みせることで、学習意欲と課題への思考力を高める。</p>	<p>・8割以上の生徒が、観点別評価において、「興味・関心・意欲」が「B」以上となった。 ・達成度については、6割以上に到達した学年もあるが、到達できなかった学年</p>	<p>・学年間で気づいたことを話し合い、指導が必要な生徒には、機会をとらえて個別指導を行った。 ・生徒の実態に合った問題の精選に取り組み、生徒が基礎基本を身につけて、学ぶ喜びを感じられるような学</p>

	に、6割以上の生徒が到達できるようにする。		もあった。 ④・3・2・1	習を心がけた。 ・一斉学習でカバーしきれない生徒については、別紙プリントを使用するなど、指導方法の工夫に努めた。
各教科の授業において、文章を根気強く読み・書きできる習慣を定着させ、論理的な思考を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ごとに、「話す・書く・読む」力の目標値を設定し、個々の生徒が作文のきまりを理解して、年度末には当初よりも文章が書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙文などの様々な文章を書かせることで、文章の決まりについて理解させる。また、自分の意見を伝えるコミュニケーション能力を養う。 すべての教育活動に、本校独自の「仲吉ノート」を関連させて活用し、それぞれの活動において、自分の考えをまとめた文章にして残す習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒の作文の能力が向上した。特に3年生は入試の関係もあり、「話す・書く」の力が飛躍的に伸びた。 「話す」ことについては、自分の思いを正しく話せない生徒も少数見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙文は、学校行事等で機会がある度に、表現方法について指導を行った。事前事後の指導をより徹底させていきたい。 コミュニケーション能力は、場面に応じた対応が不十分な面がある。上級生になるにつれて改善されはている。 「仲吉ノート」の使用についての研修を持つ予定である。
読書への興味関心を深めさせ、豊かな心や表現力を育成するとともに、読解力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が、年間を通じて24冊以上の本を読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書指導を徹底して、長時間でも集中して文章が読めるような習慣を定着させる。また、学校生活の中での場面に応じた言葉を使えるような言語感覚を養う。 「図書便り」で本の紹介を行うなど、読書指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、平均値としては目標に届かなかったが、読書への関心は高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書指導の充実を図り、「朝の読書」に真剣に取り組むことができた。 言語感覚も少しずつ改善され、乱暴な言葉が減少した。 「図書館だより」の発行や、アンケートの実施等で魅力的な図書室づくりに努めた。
			4・③・2・1	
			④・3・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：○生活習慣を見直し安定させることで、学習や運動に積極的に取り組む態度を育てる。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
規則正しい生活を送れる生徒の育成を目指し、食育や適度な運動等についての啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 全体の7割以上の生徒が、遅刻や忘れ物が減ったと評価できるようにする。 年間の教育活動計画の 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの取り方や、忘れ物防止についての指導を、職員の共通理解の元に、あらゆる教育活動の中で徹底して指導する。 食育や歯科衛生指導や性教育指導を通して、自他の命を大切にしていよいよ生活を求め 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と教科担任との連携により7割以上の生徒が遅刻や忘れ物をしなかった。 食育・歯科衛生・性教 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と教科担任とで連携を取り、家庭連絡を行うことにより、遅刻や忘れ物が減少した。 命や健康を大切に講義

	中で食育等の生活に係した授業を行う。	る態度を養う。	育等の講演会・講習会を学校行事に位置づけて実施するとともに、授業でも指導を行った。	等の啓発活動を多く行った。 ・地域との連携を深め、生徒一人ひとりの心身の成長に対して、真剣にかかわることができた。
			④・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。